

Cisco Vision Director **サーバー システムの** 設定

このマニュアルでは、システム管理者を対象に、Cisco Vision Director サーバーの初期設定方法について説明します。

サーバー展開オプション

現在、ニーズに応じて4つのサーバー展開オプションがあります。

表 1 Cisco Vision Director サーバーの展開が利用可能

設定	RAM	CPU クロック速度	vCPU 数
最小	8 GB	1.9 GHz	6
小規模	8 GB	2.5 GHz	6
標準	32 GB	2.5 GHz	24
大規模	60 GB	3.6 GHz	32

Mini と Small はクロック速度が異なります。フルインストール中に、インストーラは VM で使用可能なリソース(RAM、CPU クロック速度、vCPU 数)に基づいてサーバーサイズを検出して選択します。アップグレード中、現在の設定は変更されません。TUI を使用して、サーバーがこれらの仕様内であることを確認します。

重要:仮想マシンがこれらの仕様を満たしていない場合、TUI はすべてのオプションを表示しません。

Cisco Vision Director の展開を選択するには、次の手順を実行します。

- 1. TUI を使用してログインします。
- 2. [Cisco Vision Server Administration] を選択します。
- 3. [Setup Server Profile] を選択します(図 1(18 ページ))。

サーバー展開オプション

図 1 Cisco Vision Director のサーバープロファイルのセットアップ



VM リソースが特定の設定を展開するのに十分でない場合、メニューオプションに NA(図 2(18 ページ))と表示されること があります。

図 2 システムサイズの選択



4. サーバーを再起動して、変更を有効にします。

使用可能な展開設定の新しい制限は次のとおりです。

表 2 サーバーの仕様

数量	ミニ/スモール	標準	大規模
Groups	125	5,000	5,000
ゾーン	25	250	250
スクリプトの実行	5	100	250
開催場所(Venues)	0	25	250
データ ソース	50	100	250
デバイス	1250	5000	5000

目次

目次

- Cisco Vision Director サーバー システムの設定に必要な前提条件(19ページ)
- Cisco Vision Directorサーバー システムの設定方法(19 ページ)
- 次の作業(56ページ)

Cisco Vision Director サーバーシステムの設定に必要な前提条件

Cisco Vision Director サーバーの設定を行う前に、次の要件を満たしてください。

- Cisco Vision Director サーバーのハードウェアが設置されていて、ソフトウェアがインストールされている必要があり ます。詳細については、『Cisco Vision SoftwareInstallation and Upgrade Guide: Dynamic Signage Director Release 6.4』 を参照してください。
- Cisco Vision Director サーバーがインストールされていて、IP アドレスがわかっている必要があります。
- Cisco Vision Director についてサポートされているブラウザ バージョンがある。サポートされている最新のブラウザの 詳細については、『Cisco Vision Software Installation and Upgrade Guide: Dynamic Signage Director Release 6.4』を参照してください。
- Cisco Vision Director サーバにログインするための、物理コンソールへのアクセス、または PuTTY などの SSH クライア ントのいずれかが必要です。
- Cisco Vision Director サーバーでのインストール担当者アカウントの資格情報は cisco!123 です。フル インストールが 完了したら、このアカウント パスワードを変更することを強く推奨します。
- テキスト ユーティリティ インターフェイス(TUI)の使い方を理解している必要があります。詳細については、Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス(113 ページ)を参照してく ださい。これらの作業を簡単に説明するため、メニュー オプションに対応する文字を入力して Enter を押す手順のこと を、特定のメニュー項目を「選択する」と表現しています。
- NTP の設定要件については、Cisco Vision Director サーバーと DMP の NTP を設定するための前提条件(29 ページ)を参照してください。
- マルチキャストの設定要件については、Cisco Vision Directorのユニキャストレジストリキー(43 ページ)を参照してください。

Cisco Vision Directorサーバー システムの設定方法

ここでは、次の作業について説明します。

- 新しい DSD のフル ISO インストール:必須 20 ページ (必須)
- ホストファイルの編集(25ページ)(適宜)
- ホストファイルの編集(25ページ)(適宜)
- サーバーでのネットワーク サービスの再起動(26ページ(適宜)
- SSL 証明書の生成(26ページ)(必須)
- Cisco Vision Director サーバーと DMP での NTP の設定(28 ページ)(必須)
- Cisco Vision Director のマルチキャスト ポートの設定(39 ページ (必須)

新しい DSD のフル ISO インストール:必須

フル ISO インストールを実行する手順は次のとおりです。

- 1. フルインストールをダウンロードします。『Release Notes 6.4 for Cisco Vision Dynamic Signage Director』を参照して ください。
- 2. 上記の手順で、フル インストール ISO をマウントしてから起動します。
- 3. プロンプトが表示されたら、Enterを押してネットワーク設定を続行します。図 3(20 ページ)のような画面が表示されます。

図 3 ネットワーク設定

Ethernet .	GAAD GAAD Geleted	
	(Quit)	

注:カーソルを前または次のフィールドに移動するには、左右の矢印キーを使用します。選択するには Space を使用します (赤で強調表示されます)。

4. カーソルを [Edit] に移動して Space キーを押します。

注:IPv4 アドレスは xxx.xxx.xxx.xxx/CIDR 形式である必要があります。詳細については、「CIDR conversion table」を参照し てください。

図 4 接続アドレスの更新の編集





- 5. ネットワーク設定の TUI を終了するには、[Quit] を選択します(図 5(22 ページ))。
- 図 5 ネットワーク設定の TUI の終了



6. 次の TUI ウィンドウで [Hostname] を割り当てます(図 6(22 ページ))。

図 6 ホスト名の設定



注:ホスト名は完全修飾ドメイン名(FQDN)に設定することを推奨します。FQDNは、上の図の「sv-director」のような単一の名前ではなく、ドメイン名を使用した名前です。

7. [OK] をクリックします(図 7(22 ページ))。DSD コンポーネントのインストールを開始する必要があります。

図 7 FQDN を使用したホスト名の設定



8. DSD コンポーネントのインストールが完了したら、ブラウザから DSD にログインします。

9. eth0 インターフェイスをアクティブ化します(図 & 23 ページ))。

注:フル インストール時の SSL 証明書の生成に関する既知の問題があります。ブラウザがロードされない場合は、証明書を再 生成し、TUI から Apache を再起動します。

図 8 接続のアクティブ化



完全な ISO インストール後に行うシステム設定の初期設定

インストールの一部としてネットワーク構成が正常に完了したら、SSL 証明書を生成し、サーバーで日付と時刻のオプション を設定して(NTP および PTP) Cisco Vision Director ソフトウェアを再起動します。 セキュリティアラート:インストーラのパスワードを再設定してください。

日付と時刻のオプションを設定する方法の詳細については、Cisco Vision Director サーバーと DMP での NTP の設定 (28 ページ)を参照してください。

ネットワーク情報の設定

ヒント:何らかの理由で TUI メニューから戻る場合は、:q またはカンマを入力します。

Cisco Vision Director サーバーのネットワーク情報を設定する手順は次のとおりです。

- 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、インストール担当者として TUI にログインします。 TUI のメイン メニューが表示されます。
- 2. メイン メニューで、[System Settings] > [Network Settings] > [Setup NetworkInformation] に移動します。

ヒント:TUIメニュー内を移動するには、メニュー領域に対応する文字(a、b、cなど)を入力して、Enterを押します。他のメニューに戻るには、指定されたいずれかのキーを使用して前のメニューに戻ります。

3. [Network Manager TUI] 画面で、[Edit a Connection] を選択します(図 9(23 ページ))。

図 9 接続の編集

Edit a connection Activate a connection Set system hostname	r rease serece an open	OII
Activate a connection Set system hostname	Edit a connection	
Set system hostname	Activate a connection	1
	Set system hostname	
Quit	Quit	
<ok:< td=""><td><0</td><td>IK></td></ok:<>	<0	IK>

- 4. [eth0] を選択します。
- 5. [Edit...]を選択します(図 10(24 ページ))。

図 10 ネットワークの編集

Ethernet .	(Add) (Edit) (Delete)	
	<quit></quit>	

- 6. [IPv4 CONFIGURATION] を [Manual] に設定します(図 11(24 ページ))。
- 7. [Show] を選択して詳細を入力します。
- Cisco Vision Director の IP アドレスを入力し、その後にネットワーク プレフィックスを入力します。
 形式: *ip address/prefix*
- 9. 次の IPv4 設定を指定します。
 - Gateway
 - DNS サーバ
 - Search domains

図 11 ネットワーク設定

Edit Connection	
Profile name (1338) Device stM9 (80:88:27:75:06:6D)	
- ETHERNET	CShouo
. IP-4 CONFIGURATION (Planual)	(Hide)
Addresses GMU	
INS servers (Add)	
Scarch domains (mdd)	
Routing (No custom routes) (Edit)	
[] Ignore automatically obtained routes	
[] Ignore automatically obtained DMS parameters	
[] Require IPv4 addressing for this connection	
- IPv6 CONFIGURATION (Ignore)	(Show)
[X] Automatically connect [X] Available to all users	
	(Cancel) (00)

重要:上記のボックスおよび下記のリストのデフォルト値がオンになっている、または選択されていることを確認します。

- 名前はfeth0」のままにします。
- [IPv6 CONFIGURATION] は [Ignore] のままにします。
- [Automatically connect] および [Available to all users] のボックスはオンのままにします。
- **10.** [OK] に移動して Enter を押します。
- **11.** [Network Manager TUI] のメイン メニューに戻ります。
- 12. [Set system hostname] を選択します(図 12(25 ページ))。

図 12 システム ホスト名の設定

Please se	lect a	in opt	ion
Edit a co	mecti	on	
Activate	a com	nectio	m
Set syste	n host	mame	
Quit			
		ł	(OK>

13. Cisco Vision Director サーバーの名前を入力して [OK] をクリックします。

注:ホスト名には、完全修飾ドメイン名(FQDN)を使用してください。

Hostname	and inset on	
TO A CHARAC		Course in Million
		(Cancel) (U)
		and a second second

ホスト ファイルの編集

注:完全な ISO インストールの一部としてネットワーク設定を完了できなかった場合は、このタスクを実行してください。

作業を始める前に、vi エディタの使い方について理解してください。詳細については、Cisco Vision Dynamic Signage Director サーバーのテキストベースのユーザー インターフェイス(113 ページ)を参照してください。

ホストファイルを編集するには、次の手順を実行します。

- 1. TUI インターフェイスにログオンします。
- 2. [System Settings] の a を入力します。

- 3. [Network Settings] の a を入力します。
- **4.** [Edit hosts file] オプションの c を入力します。

重要:etc/hosts のホスト名を変更したら、サーバーをリプートして有効にする必要があります。

- 5. 確認プロンプトで、任意のキーを押して /etc/hosts ファイルを編集用に開きます。
- 6. 次の例に示すように、IP アドレス「10.10.10」の行をコメントに変更します(行の先頭に # 文字を挿入します)。 #10.10.10.10
- 7. 次の例に示すように、IPv6 localhost エントリ「::1」の行をコメントに変更します。

#::1

8. 次の例に示すように、サーバーの IP アドレスとホスト名の行を追加します。ここで、x.x.x.x は Cisco Vision Director サー バーの IPv4 アドレス、hostname はサーバーを識別する名前です。

x.x.x.x hostname

注:ドメイン情報が含まれている完全修飾ドメイン名(FQDN)を使用してください。

- 9. Esc を押して vi コマンド モードを開始します。
- 10. 次のコマンドを入力して、変更をファイルに保存します。

:wq

11. 任意のキーを押して [Network Settings] メニューに戻ります。

サーバーでのネットワーク サービスの再起動

注:完全な ISO インストールの一部としてネットワーク設定を完了できなかった場合は、このタスクを実行してください。

Cisco Vision Director サーバーでネットワーク設定が完了したら、ネットワーク設定を適用するためにネットワーク サービ スを再起動します。

- 直接接続しているコンソールまたは SSH クライアントを使用して、サーバーでシステムステータスとして TUI にログインします。TUI のメイン メニューが表示されます。
- 2. メイン メニューで、[Services Control] > [Networking] > [Restart networking] に移動します。ネットワーク インター フェイス eth0 が再起動します。
- 3. コマンドが正常に完了したことを確認します。
- 4. 任意のキーを押して [Networking] メニューに戻ります。
- 5. メイン メニューに戻ります。

SSL 証明書の生成

注: リリース 6.4 への最初のアップグレード後に、新しい SSL 証明書を生成してください。

SSL 証明書を生成するには、次の手順を実行します。

- 1. メイン メニューで、[System Settings] > [Network Settings] に移動します。
- 2. [Generate certificate file] オプションを選択します。

3. 確認メッセージが表示されたら、「Y」と入力して続行し、新しい SSL 証明書を生成します。

新しい証明書を生成せずに中止するには、「N」と入力します。

4. 任意のキーを押して [Network Settings] メニューに戻ります。

DMP 証明書のインポート

外部 URL をサポートするには、Web サイトを正しくレンダリングするために場合によっては DMP で証明書をインポートす る必要があります。新しい DMP 証明書のアップロード、変更、および DMP 証明書の削除は、DSD サーバーから行います。ま た、リストは完全にソート可能です。

この機能では、ユーザが Cisco Vision Director に使用する証明書を管理できるように Web ベースの UI が提供されます。自己 署名証明書に関連付けられたセキュリティ警告が表示されることなく、セキュアなプロトコルを介して Cisco Vision Director にアクセスできます。証明書タイプ.cer、.crt、および.pem がサポートされています。

UIには、インポート済みの証明書が一覧表示されます。証明書の名前、ファイル名、ファイルのサイズ、アップロード日、発行元名、証明書がいつ有効かが表示されます。

DMP 証明書をインポートする手順は次のとおりです。

- 1. [More] > [Manage Software] に移動します。[Software Manager] ウィンドウが表示されます(図 13(27 ページ))。
- 2. [証明書(Certificates)] タブをクリックします。
- 3. [Upload] をクリックします(図 14(27 ページ))。

図 13 DMP 証明書

trate Ch	sco Vision Dyn	amic Signage	Director	10 C	о н <u>м</u>	h 0	=
MP Firmant	Copute 1	anguage Factor	Farty Continues	Delast trages	towning	Symmilian Santan	
0							Selver restor is imposed on a contribute import to be
) INF COM	kunne -						
) Cara tritopo	eller Certificares						
) Caracterings	vian Cattilicana Cat						
) Data tempe o Chica Gorten [] Name	Non Cottilicano Teorette Tierrette	14	Lighted Tone		tunier forme	Webs Prant	WALTE

図 14 [Certificates Upload] 画面

Certificate taptaed	
Contraine Name	
Strin Drunt:	(Our)

4. ファイルを選択して [OK] をクリックすると、アップロード済みとして表示されます。

ファイルを削除するときは、証明書の削除を確認するための警告ダイアログボックスが表示されます。[Delete] をクリックし ます。[Name] 列の近くにある [Delete All] チェックボックスをクリックすると、すべての証明書を削除できます。

5. 証明書の秘密キーをインポートします。

インポートした証明書はバックアップされ、復元操作の対象となります。UIの証明書情報には、次の情報が表示されます。

- 発行元の共通名
- 有効期間(開始日と期限日)

注:証明書をアップロードした後で、DMP 証明書が DMP にプッシュされるようにコンテンツのステージングを行ってくださ い。新しい証明書が有効になるように DMP を再起動してください。Cisco Vision Director UI からコンテンツのステージング を手動で開始するには、[Script Management] を使用します。

Dynamic Signage Director(DSD)証明書のインポート

[Cisco Vision Director] でアップロードした DSD 証明書が期限切れになるか無効になり、Web インターフェイスを介して Cisco Vision Director にアクセスおよびログインできない場合は、デフォルトの証明書を復元できます。Cisco Vision Director によって生成されるデフォルトの自己署名証明書を復元するには、次の方法を使用します。その後、Web サーバーを 再起動してプライマリ サーバー IP 経由で DSD にアクセスします。

DSD のデフォルト証明書ファイルを復元するには、次の手順を実行します。

- 1. Cisco Vision Director TUI にログインします。ユーザー ID とパスワードを使用します。
- 2. [Main Menu] で、[System Settings] の a を入力します。
- 3. [Network Settings]の a を入力します。
- 4. [Restore default certificate file]の e を入力します(図 15(28 ページ))。

図 15 デフォルト証明書ファイルの復元



Cisco Vision Director サーバーと DMP での NTP の設定

Cisco Vision Director では、次のデバイスで Network Time Protoco(NTP)サービスが必要です。

- Cisco Vision Director サーバー
- DMP 高精度時間プロトコル(PTP)リードデバイス

NTP は、信頼性の高いクロック機能を Cisco Vision ネットワークに提供するもので、冗長サーバー間の同期の確保に役立ちます。

注:メディア プレーヤーで同期を最適化するには、PTP を使用してください。PTP リードのみが NTP を使用してクロックを 生成します。

Cisco Vision Director サーバーの NTP 設定を確認してください。デフォルトの NTP ソースはパブリック プールであり、施設 で使用する NTP サーバー ソースになっていない場合があります。

DMP の NTP ソースは Cisco Vision Director 内で設定します。[Configuration] > [System Configuration] > [Global DMP Settings] > [Time Source] の順にクリックします。ベスト プラクティスとして、すでに Cisco Vision Director サーバーは、す べてのメディア プレーヤーに対してデフォルトで NTP ホストとして設定されています。施設で別の NTP ソースを必要とし ない限り、この設定を変更する必要はありません。

注意: Cisco Vision Director サーバー自体は、メディア プレイヤーへの時間供給のみの目的で NTP ホストとして有効になっています。Cisco Vision Director をネットワーク内の他のデバイスの NTP ホストとして使用しないでください。

ここでは、次の作業について説明します。

- Cisco Vision Director サーバーと DMP の NTP を設定するための前提条件(29 ページ) 必須)
- Cisco Vision Director サーバでの NTP を使用したシステム日時の設定(30 ページ)(必須)
- Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動(34 ページ)
- 手動による日時の設定(34 ページ)
- Digital Media Player での NTP と PTP の設定(35 ページ)(必須)

Cisco Vision Director サーバーと DMP の NTP を設定するための前提条件

注意:ずれが生じる可能性のある不正確なVM環境のクロックを利用せずに、専用デバイスで動作している信頼性の高いNTP サーバーを参照してください。

Cisco Vision Director サーバーと DMP で NTP を設定する前に、次の要件を満たしていることを確認します。

- vi エディタの使い方を理解している必要があります。
- Cisco Vision Director サーバーの NTP ホストの要件を理解している必要があります。
 - Cisco Vision Director サーバー用に NTP サーバーのデフォルトのパブリック プールを使用しない場合は、ネット ワークの NTP ホストの IP アドレスまたは DNS 名が必要です。
 - NTP サーバーのパブリック プールを使用する場合は、Cisco Vision Director ネットワークからサーバーに到達可能 である必要があります。デフォルトでは、Cisco Vision Director サーバーの ntp.conf ファイルで、サーバーの次の Red Hat Linux パブリック プールが設定されています。

server 0.rhel.pool.ntp.org iburst
server 1.rhel.pool.ntp.org iburst
server 2.rhel.pool.ntp.org iburst
server 3.rhel.pool.ntp.org iburst

ヒント:NTP プール サーバーの使用の詳細については、Network Time Protocol の Web サイトを参照してください。

- DMP 用に Cisco Vision Director サーバーを NTP ソースとして使用するというデフォルトのベスト プラクティスを変更 する場合は、必ず次の要件を満たしていることを確認してください。
 - 先に、Cisco Vision Director サーバー用の NTP ホストを設定しておきます。
 - DMP のファームウェアのアップグレードを済ませておきます。

DMP のファームウェアをアップグレードする方法の詳細については、お使いのリリースに対応した[®] Cisco Vision Software Installation and Upgrade Guide: Dynamic Signage Director, Release 6.4』を参照してください。

最適な同期を実現するには、Cisco Vision Director サーバー用に設定したものと同じ NTP サーバーを使用します。ただし、必須ではありません。

- DMP から NTP サーバー プールを参照する必要があります。Cisco Vision Director サーバーが NTP サーバー プール を参照する場合は(デフォルト), DMP の NTP サーバーと同じプールから特定のサーバーを選択します。
- DMP では、NTP サーバー アドレスで IPv4 のみがサポートされています。
- DMP の NTP サーバーはロード バランスされたサーバーであってはなりません。
- Cisco Vision Director ネットワークは、ポート 123 で NTP メッセージ用に UDP メッセージを双方向に伝送できるよう に設定する必要があります。

UDP ポート 123 は、Cisco Vision Director サーバーと NTP ホスト間、および DMP と NTP ホスト(デフォルトではこれ は Cisco Vision Director サーバー)間の通信に使用されます。

Cisco Vision Director サーバーの詳細なポート参照については、お使いのリリースに対応した『Cisco Vision SoftwareInstallation and Upgrade Guide: Dynamic Signage Director, Release 6.4』で「PortReference」のモジュールを 参照してください。

Cisco Vision Director サーバでの NTP を使用したシステム日時の設定

Cisco Vision Director のインストールまたはアップグレードを行う際、TUI でシステム日時を設定する必要があります。また、 タイム ゾーンも設定する必要があります。

注:システム日時は必要に応じてサーバーで手動で設定できますが、実稼働ネットワークではこれは避ける必要があります。

- Cisco Vision Director サーバーでの NTP ソースの設定(30 ページ)(必須)
- タイム ゾーンの設定(32ページ)(必須)
- Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動(34 ページ)(必須)
- 手動による日時の設定(34ページ)(必要な場合)

Cisco Vision Director サーバーでの NTP ソースの設定

注:このタスクは、サーバーのデフォルトのパブリック プールを使用したくない場合にのみ実行します。

標準の NTP サーバー設定では、単語「server」の後に NTP サーバーのドメイン ネーム システム(DNS)名または IP アドレスが 使用されます。デフォルトでは、Cisco Vision Director サーバーの ntp.conf ファイルで、サーバーの次の Red Hat Linux パブ リック プールが設定されています。

server 0.rhel.pool.ntp.org iburst
server 1.rhel.pool.ntp.org iburst
server 2.rhel.pool.ntp.org iburst
server 3.rhel.pool.ntp.org iburst

これらのサーバーを参照クロックとして使用できるように、Cisco Vision Director ネットワークから到達可能にする必要があります。

独自のサーバーを使用する場合は、必ず ntp.conf ファイルでそのサーバーを追加し、これらのデフォルトのプール サーバー をコメント アウトしてください。それ以外の場合は、このタスクでこれ以上 ntp.conf ファイルを編集する必要はありません。

Cisco Vision Director サーバーで NTP ホストを設定するには、次の手順を実行します。

1. TUI メイン メニューで、[System Settings] > [Date and Time Settings] > [Setup NTP Source] に移動します。

NTP を設定して ntp.conf ファイルを編集する確認画面が表示されます。

2. ntp.conf ファイルを開いて編集するには、任意のキーを押します。

vi エディタに ntp.conf ファイルが開き、最後に設定した NTP サーバーの行の末尾にカーソルが表示されます。それ以外の場合は、サーバー設定セクションに移動します。

3.「挿入」の行編集モードに移るには、「i」と入力します。

vi エディタが挿入モードに変わります。

- 4. サイトで参照クロック ソースとして使用するサーバーを用意している場合は、次の操作を行います。
 - 行を追加し、「server ip-address」または「server dns-name」と入力します。ここで、ip-address または dns-name を、設定する NTP サーバーの IP アドレスまたは名前に置き換えます。
 - プールサーバーが設定されている行に移動して、次に示すように、先頭に「#」記号を追加して設定からコメントアウトします。

```
#server 0.rhel.pool.ntp.org iburst
#server 1.rhel.pool.ntp.org iburst
#server 2.rhel.pool.ntp.org iburst
#server 3.rhel.pool.ntp.org iburst
```

- 5. 挿入モードを終了して vi コマンド モードに戻るには、Esc を押します。
- 6. 変更内容を保存するには :wq」と入力します。

Return キーを押します。設定が保存され ntpd サービスが再起動します。ntpd が起動していることを確認する [OK] が表示されていることを確認します。

7. [Date and Time Settings] メニューに戻るには、任意のキーを押します。

NTP AUTH3 の設定

ネットワーク上のいずれかの場所にある NTP サーバーによって、DSD サーバーに正確な時刻が提供されます。セキュリティ 強化のために、認証を許可するようにこの NTP サーバを設定できます。この場合は、NTP AUTH 3 プロトコルを使用します。 認証を使用するために NTP サーバとの通信をセットアップする場合は、最初に NTP サーバの設定方法に関する情報を確認 してください。具体的には、キーの ID とキー値、および NTP サーバの IP アドレスを把握する必要があります。

- 1. TUI を使用して、[Main Menu] > [System Settings] > [Date and Time Settings] > [Setup NTP Symmetric Keys for NTP authentication] に移動します。
- 2. 端末セッションでエディタが起動され、NTP クライアントの設定行を追加できます。
- 3. ID、タイプ、およびキーの情報を入力します。この例では、ID が 15、タイプが M、キーが I_see! です。

•	For	more	information	about	this	file,	see	the	man	page	ntp_auth(5).
#	id	typ	e key								
15		м	I_see!								

- 4. ファイルを保存して TUI メニューに戻ります。
- 5. 前の TUI メニュー オプションに移動します。
- 6. [Setup NTP Source]の a を選択します。このファイルには、NTP サーバを示す行が必要です。次の例のようにファイルに 行を追加します。

Use public servers from the pool.ntp.org project.
Please consider joining the pool (http://www.pool.ntp.org/join.html).
server 192.168.69.78 iburst key 15

7. ファイルを保存します。数分後、Cisco Vision Director サーバの時刻が NTP サーバに基づいた正しい時刻と一致します。

タイム ゾーンの設定

Cisco Vision Director サーバーではタイム ゾーンの設定が必要です。

注: Cisco Vision Director サーバの [Configuration] > [Venues] インターフェイスにタイム ゾーンを設定するためのオプショ ンがありますが、このオプションは情報提供のみを目的としています。この情報は再生証明レポートにも使用されます。

ここでは、次の作業について説明します。

- システム設定のタイム ゾーン コードの検索(32ページ)(任意)
- システムのタイム ゾーンの設定(33ページ)(必須)

システム設定のタイム ゾーン コードの検索

サーバーのタイム ゾーン情報を設定するためにタイム ゾーン コードを探す必要がある場合は、このタスクを実行します。

注:このタスクは情報を提供するだけであり、実際にはタイム ゾーンは設定されません。

システム設定のタイムゾーンコードを検索するには、次の手順を実行します。

- a. TUI インターフェイスから [System Settings] > [Date and Time Settings] > [Change Timezone] に移動します。
- b. サーバーのロケーションに該当する大陸または海洋に対応する番号を入力します。
- c. 国に対応する番号を入力します。
- d. (必要に応じて)タイム ゾーンの番号を入力します。
- e. 設定したタイムゾーン情報の確認が表示されたら、1(はいの場合)を入力して設定を承認するか、または2(いいえの 場合)を入力してキャンセルします(図 16(32 ページ))。

図 16 タイム ゾーンの確認プロンプト



f. 承認したことをプロンプトで確認した後、表示されたタイム ゾーン文字列をコピーします。

図 17(33 ページ)は、America/Los_Angeles のタイム ゾーン コードの例です。

図 17 タイム ゾーン コードの例

```
The following information has been given:

United States

Pacific Time

Therefore T2='America/Los_Angeles' will be used.

Local time is now: Mon Feb 18 16:56:47 PST 2013.

Universal Time is now: Tue Feb 19 00:56:47 UTC 2013.

Is the above information OK?

1) Yes

2) No

#? 1

You can make this change permanent for yourself by appending the line

T2='America/Los_Angeles'; export T2

to the file '.profile' in your home directory; then log out and log in again.

Here is that T2 value again, this time on standard output so that you

can use the /usr/bin/tzselect command in shell scripts:

America/Los_Angeles

Press any key to return to the menu.
```

- 8. 任意のキーを押して [Date and Time Settings] メニューに戻ります。
- 9. サーバー ロケーションに該当するコードを使用してシステムのタイム ゾーンを設定します。システムのタイム ゾーンの 設定(33 ページ)を参照してください。

システムのタイム ゾーンの設定

前提条件

システムのタイム ゾーンを設定する前に、次の情報が必要になります。

- vi エディタのコマンドの使い方を理解している必要があります。
- サーバー ロケーションのタイム ゾーン コード。タイム ゾーン コードを検索する必要がある場合は、システム設定のタイム ゾーン コードの検索(32 ページ)を参照してください。

手順

システムのタイムゾーンを設定してサーバーの再起動後も持続させるには、次の手順を実行します。

- 1. サーバーの TUI メイン メニューから [System Settings] > [Date and Time Settings] > [Change System Timezone] に 移動します。
- 2. タイムゾーンコードを入力します。この例では、アジア/東京(図 18(34 ページ))になります。

図 18 タイムゾーンの編集



- 3. メイン メニューに戻ります。
- 4. [Cisco Vision Server Administration] > [Restart Dynamic Signage Director Software] をクリックします。
- 5. サーバーを再起動し、タイム ゾーンの変更を有効にします。

Cisco Vision Director ソフトウェアの再起動

サーバーの TUI で NTP サーバーとタイム ゾーンを設定した後、Cisco Vision Director ソフトウェアを再起動する必要があり ます。

Cisco Vision Director ソフトウェアを再起動する手順は次のとおりです。

1. サーバーの TUI メインメニューから、次に移動します。

[Cisco Vision Server Administration] > [Restart Cisco Vision Dynamic Signage Director software].

- 2. プロンプトが表示されたら、任意のキーを押して [Server Administration] メニューに戻ります。
- 3. メイン メニューに戻って TUI を終了します。

手動による日時の設定

<mark>注</mark>:このタスクは、システム日時の手動設定が必要であると判断した場合に備えるための手段として提供されています。実稼 働システムや代用の NTP サービスでは、日時の手動設定は避けてください。

日時を手動で設定するのは、次の手順を実行します。

- 1. サーバーの TUI メイン メニューから [System Settings] > [Date and Time Settings] > [Change Date and Time] に移動 します。
- 2. 確認のプロンプトで、「Y」と入力して続行します。
- 3. 新しい日付と時刻を MMDDhhmm[[CC] YY] [.ss] の形式で入力します。
 - MMDDhhmm は必須です(MM は月、DD は日、hh は時、mm は分)。
 - CC は世紀(西暦年の最初の2桁の数字)で、YYの使用は任意です。たとえば、2013年では 20」になります。
 - YY は、西暦年の最後の 2 桁の数字で、省略可です。たとえば、2013 年では「13」になります。
 - .ss は秒で、省略可です。
- 4. 任意のキーを押して [Date and Time Settings] メニューに戻ります。

Digital Media Player での NTP と PTP の設定

デフォルトでは、NTP と PTP の両方のサービスがデジタル メディア プレーヤーで自動的に有効になります。デジタル メディ ア プレーヤーは、PTP を使用して最適な同期を実現します。ただし、ネットワーク内の PTP リードとして選択されたデバイス に初期クロッキングを提供するために、NTP ソースも使用する必要があります。

このセクションでは、デフォルトの設定とそれらの変更方法について説明します。次の作業について説明します。

- デジタル メディア プレーヤーでの NTP および PTP の制約事項(35 ページ)
- デジタル メディア プレーヤーでの NTP と PTP に関するガイドライン(35 ページ)
- システムにあるすべての DMP での標準的な NTP および PTP 設定の変更(36 ページ)(任意)
- デジタル メディア プレーヤーに対する PTP 動作の確認(38 ページ)

デジタル メディア プレーヤーでの NTP および PTP の制約事項

デジタルメディアプレーヤーで PTP を設定する前に、次の制約事項を考慮してください。

- デフォルトで PTP メッセージは VLAN を通過しません。PTP リーダー候補を VLAN ごとに識別して [Configuration] > [System Configuration] ページで設定する必要があります。
- システムは、[Configuration] > [System Configuration] ページで設定可能な高精度時間プロトコル(PTP) 存続可能時間 (TTL 設定をサポートします。PTP TTL は、PTP リーダーの選出で通過できる VLAN の数を指定します。デフォルト値の 1(推奨)は、各 VLAN で独自の PTP リーダーが選出されることを意味します。

注:複数の VLAN がある場合に簡単に設定を行えるように、システムは PTP リーダー候補の対象としてすべてのデジタ ルメディアプレーヤーを表示するようにデフォルト設定されています。これによって設定はシンプル化されますが、デバ イスが各ネットワークでリーダーデバイスを調停する際の所要時間は、各ネットワーク内の対象デバイスの数によって 異なる点に注意してください。

- デジタルメディアプレーヤーでビデオを再生する際のコンテンツ同期には、PTPを使用した DMP 全体の正確な時刻が 利用されます。DMP でビデオを再生中にいずれかのデバイスがリブートすると、リブートしたユニットはビデオを最初 から再生し直します。他のプレーヤーと同期されるのは、再生リストが次にレンダリングされるときのみです。
- デジタルメディアプレーヤーが、同期機能が強化されたビデオウォールのゾーンベースコンテンツ同期に参加している 場合、リブートしたユニットはビデオウォールのデバイスリーダーで現在再生されているアイテムと同期されます。詳細 については、『Release 6.3: Cisco Vision Dynamic Signage Director Operations Guide』の「Working with Video Walls」 を参照してください。

デジタル メディア プレーヤーでの NTP と PTP に関するガイドライン

デジタル メディア プレーヤーで NTP と PTP を設定する前に、次のガイドラインを考慮してください。

 Cisco Vision Director の新規インストールの場合、デジタルメディアプレーヤーのデフォルト時刻源は PTP で、選出され た PTP リーダーのデフォルト時刻源は NTP です。

NTP のガイドライン

- PTP リーダー(VLAN ごと)に指定されたデジタルメディアプレーヤーは、それぞれの時刻源として NTP を使用します。 ネットワーク内の他のデバイスは、選出された PTP リーダーの PTP 基準クロックを使用して動作します。
- PTP を無効にすると(非推奨),すべての デバイスが NTP を使用してローカル クロックを設定します。

注:同期ビデオ再生の場合、デバイスは NTP のみに依存できません。PTP も使用する必要があります。

- ホスト タイム サーバーとのデフォルト NTP 同期間隔は1時間ですが、設定可能です。
- Cisco Vision Director で NTP ソースを設定する必要があります。デフォルトで、Cisco Vision Director サーバーはデバイ スの NTP ホストとして設定されます。

PTP のガイドライン

- PTP バージョン 2 はデジタル メディア プレーヤーでのみサポートされ、設定すると Cisco Vision Director ネットワーク内のすべてのデバイスにグローバルに適用されます。
- PTP 設定には、PTP ドメインと一連のリーダー候補が含まれます。
 - [PTP domain]: デフォルトは 0 です。

このドメインがネットワーク内で使用される他のどの PTP ドメイン(およびマルチキャスト アドレッシング)とも競合しないことを確認し、必要に応じて変更します。詳細については、「[Global DMP Settings]: PTP プロパティの値」の 表を参照してください。

- [PTP leader candidates]:デフォルトは*です。

これは、ネットワーク内のすべてのデバイスがリーダー候補の対象であり、それぞれのサブネットのリーダーを指定 する調停が実行されることを指定します。

デフォルトの PTP リーダー候補設定を変更する場合は、VLAN ごとに IP アドレスをセミコロンで区切って1台以上の デバイスをリーダー候補として設定する必要があります。

ネットワークあたり2つ以上のリーダー候補が推奨されます。

ネットワークに社内 PTP リーダーがある場合は、[PTP leader candidates] プロパティの値を空白のままにします。ただし、この設定がサポートされるのは複数のサブネットが使用されていない場合のみです。

システムにあるすべての DMP での標準的な NTP および PTP 設定の変更

デフォルトで NTP サービスと PTP サービスは、デジタル メディア プレーヤーで自動的に有効化および設定されます。このタ スクは、表 3(36ページ)および表 4(37ページ)で説明されているデフォルト設定を変更する必要がある場合に使用します。

表 3 Global DMP Settings: PTP プロパティの値

プロパティ (レジストリ キー)	説明	値
PTP ドメイン	PTP 通信のマルチキャスト アドレスを 定義する PTP ネットワークのドメイン	IEEE 1588 PTP の有効な値は次のとおり です。
ptp.domain)	番号。	0 :(デフォルト)224.0.1.129
		1 :224.0.1.130
		2 :224.0.1.131
		3 :224.0.1.132

表 3 Global DMP Settings:PTP プロパティの値(続き)

プロパティ	<u></u>	
(レジストリキー)	說明	1旦
PTP リーダー候補	リーダー候補選択の対象となるデバイス。	値は次のとおりです。
(Globaldmpsetting.common.init. ptp.master.host)		 *:(デフォルト)。PTP リーダー候補の対象としてネットワーク内のすべてのデバイスを指定するワイルドカードパターン。
		 サブネットごとにセミコロンで区切られた、デバイスの IPv4 アドレス。
		例: 10.0.0.3;10.0.0.4;192.168.0.5;192.16 8.0.6
		 空白: Cisco Vision Director の外部 にある PTP リーダーソースが使用 されることを指定します。この設定 は、複数のサブネットにデバイスが ない場合にのみ有効です。
PTP time-to-live	PTP リーダーの選出で通過できる VLAN	1(デフォルト)
(Globaldmosetting common init	UJ g X _o	注・ビデオウォールごとの PTP リーダー
ntn ttl.)		の選出を 11 デフォルト値 のままにする
		いき山と () ノカルト le かみみにりる ことをお知めします TTL を 2 N トに認
		ここでの前のしより。ここでと以上に設 完すると ローカル ビデオ同期の任てが
		発生する可能性があります。

注:ドメインの設定を空白にすると、すべての DMP で PTP が無効になります。DMP は 時刻源として再び NTP を使用するようになります。

表 4 Global DMP Settings:NTP プロパティの値

プロパティ (レジストリ キー)	説明	値
NTP Host (Globaldmpsetting.common. deploy.ntpc.hostname)	NTP サーバーの IPv4 アドレス。	デフォルト:Cisco Vision Director サー バーの IP アドレス。
NTP sync interval (Globaldmpsetting.common. deploy.ntpc.interval)	設定された NTP ホストと時刻を同期す るまでにデバイスが待機する秒数。	3600 (デフォルト)
Timezone (Globaldmpsetting.common. deploy.ntpc.timezone)	使用するタイムゾーンのコード。	GMT(デフォルト)

すべての DMP で標準的な NTP および PTP 設定を変更する手順は次のとおりです。

- 1. 管理者として Cisco Vision Director サーバーにログインします。
- 2. [Configuration] > [System Configuration] > [Global DMP Settings] > [Time Source](図 19(38 ページ))の順にクリックします。

図 19 DMP の NTP と PTP のグローバル DMP 設定

System Configuration	Cisco Vision Dynamic Signage Dir	ector 😑 🗢 🗉	H b Q	Homas 🔻 🗏 🛦
A Dennic Syspe Denor Setting (4) A Denor Syspe Denor Setting (4) A denor Setting (4)	Citic Construction System Configuration System Configuration System Configuration Superior Service Service Service 141 Service Configuration Decode Lance, 1 Decode Lance, 2 Decode Lance, 3 Decode, 3	Configuration Property SETP Ages SETP Ages Settle residence Concentration Settle Ages Settle residence PEP Ages PEP Age	M G U	rties TP Properties

- 3. (オプション)ネットワークの必要に応じて、グローバル PTP プロパティを変更します。[Edit] アイコン(鉛筆)をクリック します。表 3(36 ページ)を参照してください。
- 4. (オプション)環境の必要に応じて、グローバル NTP プロパティを変更します。[Edit] アイコン(鉛筆)をクリックします。 表 4(37 ページ)を参照してください。
- 5. [保存(Save)]をクリックします。
- 6. デバイスをリブートします。

デジタル メディア プレーヤーに対する PTP 動作の確認

ここでは、PTP 設定だけでなく、デバイスに対する PTP 動作も合わせて確認する方法について説明します。

デジタル メディア プレーヤーに対する PTP 動作を確認する手順は次のとおりです。

1. ブラウザを開き、DMP の1つに移動します。

http://sv4k-ip-address/ptp.html

2. 「offsetFromMaster」の値が 0.0 のユニットを探して、PTP リーダーを特定します。

図 20(39 ページ)では、PTP リーダーが強調表示され、12 のメンバーで PTP が正常に動作しているネットワークが示されています。

図 20 正常な PTP クロック動作

PTP clock status

```
Status from local PTP:
Status from local FIF:
sending: GET CURRENT_DATA_SET
90ac3f.fffe.038649-0 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
                  stepsRemoved
                  offsetFromMaster 0.0
                  meanPathDelay
                                       0.0
Status from remote PTP devices:
sending: GET CURRENT_DATA_SET
90ac3f.fffe.03863d-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
                   stepsRemoved
                   offsetFromMaster 333.0
                                      12613.0
                   meanPathDelay
         90ac3f.fffe.03863b-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
                  stepsRemoved
                  offsetFromMaster -597.0
meanPathDelay 13332.0
         90ac3f.fffe.03863c-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
                  stepsRemoved
                  offsetFromMaster -366.0
meanPathDelay 13741.0
         meanPathDelay 13741.0
90ac3f.fffe.03863f-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
                  stepsRemoved
                   offsetFromMaster 334.0
                                       12543.0
                    neanPathDelay
         90ac3f.fffe.03863e-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
                   stepsRemoved
                  offsetFromMaster 849.0
         meanPathDelay 13017.0
90ac3f.fffe.038641-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
                  stepsRemoved
                  offsetFromMaster -323.0
meanPathDelay 13228.0
         90ac3f.fffe.03864f-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
                  stepsRemoved
                  offsetFromMaster 239.0
        meanPathDelay 12560.0
90ac3f.fffe.038645-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
                  stepsRemoved
                  offsetFromMaster 90.0
         meanPathDelay 12642.0
90ac3f.fffe.038647-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
                  stepsRemoved
                  offsetFromMaster 1328.0
         meanPathDelay 13542.0
90ac3f.fffe.03863a-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
                  stepsRemoved
                  offsetFromMaster 33.0
                    eanPathDelay
                                       14068.0
         90ac3f.fffe.038646-1 seq 0 RESPONSE MANAGMENT CURRENT_DATA_SET
                  stepsRemoved
                  offsetFromMaster -1768.0
                   meanPathDelay
                                      14699.0
```

Cisco Vision Director のマルチキャスト ポートの設定

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- Cisco Vision Director でのマルチキャスト サポートについて(40 ページ)
- Cisco Vision Director のユニキャスト レジストリキー(43 ページ)
- Cisco Vision Director のマルチキャスト ポートの設定方法(44 ページ)

Cisco Vision Director でのマルチキャスト サポートについて

この項では、次のトピックについて取り上げます。

- SV-4K、CV-UHD、および CV-UHD2 メディア プレイヤーでビデオをチャネルとしてストリーミングするための HDMI-In エンコーディング(40 ページ)
- スクリプトごとのマルチキャスト最適化(40ページ)
- Cisco Vision Director でのマルチキャスト レジストリキー(42 ページ)

SV-4K、CV-UHD、および CV-UHD2 メディア プレイヤーでビデオをチャネルとしてストリーミングするための HDMI-In エンコーディング

Cisco Vision Director は、Cisco Vision Director のマルチキャストベースのチャネルとして再生される SV-4K、CV-UHD、または CV-UHD2 デジタルメディアプレーヤーにおいて、HDMI-In ポートに接続されたラップトップまたはその他のサポート対象デバイスからのビデオのストリーミングをサポートしています。

Connected Venue(Connected Stadium)ネットワークでこの機能に使用するマルチキャスト範囲には、lpv4 組織ローカル/ サイト スコープと呼ばれる管理スコープ アドレス範囲の一部、または lpv4 組織ローカル/サイト スコープ(239.0.0.0/8)の 拡張を使用することを推奨します。SSM の場合は、管理スコープ範囲(239.232.0.0/16)の特定のプロックを推奨します。

注:チャネルのプライバシーを維持する場合は、一意のマルチキャスト アドレス(239.193.20.0/24 の範囲内)を使用してス イートごとに DMP エンコード チャネルを作成し、スイートごとに個別のチャネルを作成します。たとえば、10 個のスイート がある場合は、一意のマルチキャスト アドレスを使用して 10 個の独立した DMP エンコード チャネルを作成し、DMP エン コード チャネルごとに 10 個の異なるチャネル ガイドを作成して、各スイートを異なるチャネル ガイドに割り当てます。

この機能の設定については、『Cisco Vision Dynamic Signage Director Operations Guide, Release 6.4』を参照してください。

スクリプトごとのマルチキャスト最適化

シスコでは現在、各 DMP で処理する必要があるマルチキャスト メッセージの数を減らすために、スクリプトごとのマルチ キャスト最適化を使用しています(最大 20 個の異なるスクリプトを対象)。スクリプトごとのマルチキャスト最適化は、 Cisco Vision Director で次の条件が成り立つ場合に DMP の負荷を減らすことを目的としています。

■ 複数のイベント スクリプトが施設で同時に実行されている。

スクリプトは、複数の施設にわたって実行することも、1 つの施設で実行することもできます。

■ スクリプトの DMP に複数のメッセージを送信する「外部コンテンツ統合」機能を使用している。

スクリプトごとのマルチキャスト最適化について

- スクリプトごとに最大 20 使用できます。
- 実行中のスクリプトの数が 20 を超える場合、最初の 20 個のスクリプトはスクリプトごとのマルチキャスト チャネルを 使用して動作し、その他のスクリプトはグローバル マルチキャスト ホスト ポート経由で動作します。
- リモート サーバーは不要です。
- デフォルト:無効化

スクリプトごとのマルチキャストの利点

複数のマルチキャスト チャネルを設定できます。サーバはそれらを介して、最大 20 個のスクリプトについて特定のイベント スクリプトに必要なマルチキャスト メッセージのみを送信します。

図 21(41 ページ)に、スクリプトごとのマルチキャストがある場合とない場合のメッセージの分離を示します。各 DMP は、 4~2つのパケットを認識します。特に、各 DMP は 1 つの XML ペイロードのみを処理するだけで済むようになります。この ことは、XML ペイロードが大きい場合に重要です。

図 21 マルチキャスト メッセージング(スクリプトごとのマルチキャスト最適化がある場合とない場合)



すべての DMP が、リモート サイトに関連付けられている DMP も含めて、これらのスクリプトごとのマルチキャスト チャネ ルをリッスンします。

複数のイベント スクリプトに適用されるメッセージの場合は、メッセージが複製されて各マルチキャスト チャネルに送信されます。したがって、この機能によって、DMP が認識および処理するメッセージの数が減る代わりに、トレードオフとして Cisco Vision Director の負荷が増える(送信およびコピーされるメッセージの数が増える)可能性があります。ただし、この負荷は無視しうる程度であると見込まれます。

ユニキャスト機能の詳細については、「Cisco Vision Director のスクリプトごとのユニキャストの設定(45 ページ)」を参照してください。

Cisco Vision Director でのマルチキャスト レジストリキー

Cisco Vision Director は、DMP コントロール プレーンの操作にマルチキャスト メッセージを使用します。Cisco Connected Venue(Connected Stadium)ネットワークの設計では、Cisco Vision Director が使用する次のマルチキャスト グループ アドレスが割り当てられます。

- 239.193.0.0/24:制御通信用
- 239.192.0.0/24:ビデオ通信用(このモジュールで説明しているマルチキャスト設定では、このネットワークの使用は避けてください)

マルチキャスト アドレス指定は、Cisco Vision Director [Configuration]>[System Configuration]>[Advanced Registry Settings] ページのレジストリキーを使用して設定されます。

表 5(42 ページ)では、マルチキャスト設定を制御する Cisco Vision Director のレジストリ キーについて説明しています。

注:デフォルトの PTP ドメイン 0 は、マルチキャスト アドレス 224.0.1.129 を使用します。詳細については、表 3(36 ページ) を参照してください。

デフォルト値	説明
239.193.0.253	DMP でのゾーンベースの同期に使 用されるグローバル マルチキャス ト アドレスを設定します。
50001 注:システムでは、セカンダリ ビデ オについてこのデフォルト(デフォ ルト + 1)に基づいて追加のポート が自動的に使用されます。デフォル トが 50001 の場合は、50002 もセ カンダリ ビデオの使用に予約され ています。	DMP でのゾーンベースの同期のマ ルチキャスト アドレスを使用する ためのプライマリ ビデオのデフォ ルト ポートを設定します。
239.192.0.254:50001 注意:このデフォルトのマルチキャ ストアドレスは、インストール後に 239.193.0.0/24 のアドレス範囲、 または Cisco Connected Stadium ネットワークで Cisco Vision Director の制御用に設定したネッ トワークを使用するように変更し てください。	Cisco Vision Director のグローバル マルチキャスト アドレスおよび ポートを設定します。
 False(アップグレードした サーバーの場合) スクリプトごとのマルチキャスト 最適化は無効になり、Cisco Vision Director サーバーは、すべての通信 を MulticastHostPort アドレス経由 ですべての DMP(すべてのリモー ト DMP を含む)に直接送信します。 True(新規インストールの場合) 	スクリプトごとのマルチキャスト 最適化を有効または無効にします。
	 デフォルト値 239.193.0.253 50001 注:システムでは、セカンダリビデオについてこのデフォルト(デフォルト+1)に基づいて追加のポートが自動的に使用されます。デフォルトが 50001 の場合は、50002 もセカンダリビデオの使用に予約されています。 239.192.0.254:50001 注意:このデフォルトのマルチキャストアドレスは、インストール後に 239.192.0.254:50001 注意:このデフォルトのマルチキャストマドレスは、インストール後に 239.193.0.0/24 のアドレス範囲、または Cisco Connected Stadium ネットワークで Cisco Vision Director の制御用に設定したネットワークを使用するように変更してください。 False(アップグレードしたサーバーの場合) スクリプトごとのマルチキャスト最適化は無効になり、Cisco Vision Director サーバーは、すべての通信をMulticastHostPort アドレス経由ですべての DMP(すべてのリモートDMPを含む)に直接送信します。 True(新規インストールの場合)

表 5 Cisco Vision Director のマルチキャスト レジストリキー

レジストリ キー	デフォルト値	説明
transport.dynamic.send_range	50080-50099 MulticastHostPort レジストリ キー が 239.193.0.254:50001 に設定さ れている場合は、実行中スクリプト のグローバル ホストポートの範囲 として 239.193.0.254:50080- 239.193.0.254:50099 が使用され ます。	スクリプトごとのマルチキャスト 最適化を行うためのポート範囲を 指定します。 これらのポートは MulticastHostPort レジストリキー で指定されたネットワークで使用 され、実行中スクリプトに割り当て られる追加のグローバルホスト ポートの範囲を定義します。

表 5 Cisco Vision Director のマルチキャスト レジストリキー(続き)

Cisco Vision Director のユニキャスト レジストリキー

リリース 6.2 以降、DMP が Cisco Vision Director からのユニキャスト制御メッセージを介してユニキャスト状態変更メッ セージを受信できるようにするユニキャストレジストリ設定がサポートされています。ユニキャストのレジストリ設定は、 script.stateChange.nextStateDelay です。

注:ユニキャストの使用には、次の警告が適用されます。

- ユニキャストによってその他のマルチキャストが不要になるわけではありません。
 - データ統合のデータに依存するウィジェットを使用する場合は、ウィジェットがマルチキャストを利用してデータ 競合を取得することを確認してください。
 - マルチキャスト ビデオ チャネルの場合はユニキャストを使用しないか、ユニキャスト ビデオ チャネルを使用して ください。
 - ビデオ ウォール同期の代替手段はありません。
- 同時に到着する setState メッセージに依存する同期は実行されない可能性があります。
- この機能は、エッジ条件のみをカバーする代替手段です。

重要:setState を使用して DMP を同期する場合は、同期を試行するために、レジストリ値 script.stateChange.nextStateDelay によってすべての状態変化メッセージ(マルチキャストとユニキャストの両方)が遅 れます。これを「ベスト エフォート」として使用します。環境に合わせて調整してください。5秒に設定すると、すべての状態変 化が5秒間遅れます。

詳細については、Cisco Vision Director のスクリプトごとのユニキャストの設定(45 ページ)を参照してください。

Cisco Vision Director のマルチキャスト ポートの設定に必要な前提条件

マルチキャスト ポートを設定する前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

 Cisco Connected Venue ネットワークや Cisco Vision Mobile ネットワークを含む、Cisco Vision Director ネットワーク のすべての領域におけるマルチキャスト アドレッシングの使用について理解する必要があります。マルチキャスト アド レス/ポートのオーバーラップがないことを確認します。

注意:スクリプトごとのマルチキャスト設定では多数のポートが必要になります。また、ビデオが DMP の制御チャネルに ルーティングされる場合、診断が困難な障害を起こす可能性があります(ポート番号が同じ場合に発生する可能性があ り、グループ/ホスト部分が異なる場合でも同様です)。そのため、使用を予定しているポート範囲がネットワーク内の他 のマルチキャスト ソースで使用されていないことを確認することが重要です。

 Cisco Connected Venue ネットワークで推奨されるマルチキャスト アドレッシングの詳細については、『Cisco Vision Network, Server, and Video Headend Requirements Guide』を参照してください。このガイドは認定パート ナーがシスコ担当者から入手できます。

 Cisco Vision Director ネットワーク(リモート施設のネットワークや、複数施設環境の施設に関連付けられているネット ワークも含む)のすべての DMP に向けてグローバル マルチキャスト ホスト ポートをルーティングして DMP に認識さ れるように、ネットワークを正しく設定する必要があります。

Cisco Vision Director のマルチキャスト ポートの設定方法

ここでは、次の作業について説明します。

- Cisco Vision Director のグローバル マルチキャスト ホスト ポートの設定(44 ページ ()必須)
- Cisco Vision Director のスクリプトごとのマルチキャストの設定(44 ページ)(推奨)
- DMP でゾーンベース コンテンツ同期を行うためのマルチキャスト サポートの設定(48 ページ (任意)

Cisco Vision Director のグローバル マルチキャスト ホスト ポートの設定

グローバル マルチキャスト ホスト ポートは、メッセージがスクリプトの一部ではない場合、スクリプトごとのマルチキャス トが無効になっている場合、または、実行中のスクリプトの数が設定済みのスクリプトごとのマルチキャスト ポートの最大 数を超えた場合に、Cisco Vision Director が DMP にメッセージを送信するために使用します。

[Configuration] > [System Configuration] > [Advanced Registry Settings] インターフェイスの「MulticastHostPort」レジス トリキーを使用して設定されます。

注:デフォルト値は現在、アドレス 239.192.0.254:50001 を使用しており、239.193.0.0/24 の範囲のネットワーク アドレス に変更する必要があります。

Cisco Vision Director のマルチキャスト アドレッシングを確認または設定する手順は次のとおりです。

- 1. [Configuration] > [System Configuration] > [Advanced Registry Settings] をクリックします。
- 2. キーリストで「MulticastHostPort」レジストリキーまでスクロールし、レジストリのエントリを確認します。
- 3. [Value] フィールドをクリックし、[Edit] をクリックします。[Edit Configuration Setting] ダイアログボックスが表示されます。
- 4. 239.193.0.0/24 の範囲のマルチキャストアドレスとポート番号を指定します。

注:必ず Cisco Connected Venue ネットワークで Cisco Vision Director 制御メッセージ用に設定した値を使用し、:port を含めてください。デフォルトの推奨値は :50001 です。

5. [保存(Save)]をクリックします。

Cisco Vision Director のスクリプトごとのマルチキャストの設定

デフォルトでは、スクリプトごとのマルチキャスト最適化は無効になり、Cisco Vision Director サーバは、すべての通信を MulticastHostPort アドレス経由ですべての DMP(すべてのリモート DMP を含む)に直接送信します。

スクリプトごとのマルチキャストを設定するには(ポートの数を増やす/減らす)、次の手順を実行します。

1. 実行中のすべてのスクリプトを停止します。

2. [Configuration] > [System Configuration] > [Advanced Registry Settings] をクリックします。

スクリプトごとのマルチキャストを有効にするには、次のレジストリ キーの値を変更します。

- transport.dynamic.enable:値 true を指定します。
- transport.dynamic.send_range:(必要に応じて)ネットワーク設定に従うようにポートの範囲を変更します。デフォルトは 50080-50099 です。

注:これらのポートが、ネットワークで使用している他のマルチキャスト ポートと重複しないことを確認してください。

3. [保存(Save)]をクリックします。

- 4. すべての DMP で HTML ランタイムをリロードします。
 - a. コマンドを適用する必要があるすべての DMP デバイスを選択します。
 - b. [Play] ボタンをクリックして、選択されたデバイスに対してコマンドを実行します。
- 5. 設定を確認するには、次のコマンドを実行します。
 - a. イベント スクリプトを開始して停止し、状態を変更します。
 - b. DMP がリッスンしているグローバル マルチキャストが、グローバル マルチキャスト ホストポート(50001)ではな く、スクリプトごとのポート(デフォルトでは 50080-50099)のいずれかであることを確認します。

スクリプトが開始および停止しない場合は、スクリプトごとのマルチキャスト設定のトラブルシューティング(47ページ)を 参照してください。

Cisco Vision Director のスクリプトごとのユニキャストの設定

リリース 6.2 以降、ユニキャストの状態変更展開機能がサポートされています。ユニキャストの状態変化 DMP には、マルチ キャストが提供する機能のすべては備わっていません。*推奨*されるベスト プラクティスは、マルチキャストの状態変化展開 です。DMP がメインの施設外に存在するか、マルチキャスト ルーティングを使用できないように配置および設定されている 可能性がある場合は、ユニキャストの状態変化を使用します。

ユニキャストの状態変化メッセージには、いくつかの制限事項があります。

- ユニキャストの状態変化メッセージを使用する DMP は、他のユニキャストの状態変化 DMP、またはマルチキャストの状態変化メッセージを使用する DMP のいずれとも、状態変化を同期しません。同期が行われないことによる影響は、すべてのコンテンツ タイプに及ぶ可能性があります。
- ユニキャスト状態変更メッセージはすべての DMP に送信されますが、ネットワークの遅延、DMP サーバーの処理負荷、 および DMP の状態が原因で、状態変更メッセージが遅延する場合があります。これが同期不足の原因です。
- 大規模なサーバー展開を使用する 5000 DMP の場合、最良のケースは、すべての 5000 DMP への送信に少なくとも 3 秒 かかることです。ただし、これは最良の場合の見積もりです。実際の状況では、setState メッセージを受信した最初の DMP から最後までの状態の違いとして、3 秒を超えるタイミングが発生します。
- ユニキャストの状態変化メッセージによって、システムでの以下を含むその他のマルチキャストの使用が不要になることはありません。
 - マルチキャスト ビデオ ストリーム。
 - DMP 間のゾーンベースのビデオ ウォール同期通信には、ビデオ ウォール内の DMP 間のマルチキャスト通信が使用 される。
 - PTP によるマルチキャスト通信の使用。
 - データ統合機能を使用した外部データ ソースのマルチキャスト アップデート(ウィジェットとの組み合わせ)。回避 策として、データ統合機能を使用するウィジェット内にデータ バインド コンポーネントを設定する。
 - ユニキャスト状態変更メッセージは再送信されません。サーバーが、ネットワークの問題、DMPのダウンなどにより)時間内に状態変更メッセージで DMP に到達できない場合、メッセージは再送信されません。DMP は、将来の状態変更で状態変更メッセージが正常に送信されるまで、前の状態を表示します。

Cisco Vision Director UI を使用してデバイスでユニキャストを選択するには、次の手順を実行します。 1. [Configuration] > [Devices] > [Locations & DMPs] タブ をクリックします(図 22(46 ページ))。

図 22 ユニキャストするデバイスの選択

Devices				1000			601 I				
+ - /	# D	L T AI	ag sP Phones	Listal Cr	entra D	rigitay Specifica	durs.	4		And the contract	
Type	Norm	IP Address	MAC Address	Model Name	Description	WFI Enabled	State	Vanue #		- Martine - Constant	
CMF+cocation-	DAMPS:	100.100.300.1		39-46		10	Not Heatly			Aberig 12.577	
EMP+Location	DAPOR	100.100 100.10		39.46		fer.	Ant Reputy			Description	
DMP+Lucation	DAF1002	105:100.35.3		0V-48		No.	Aut Rently			W Standard (10) 1000 100 1	
DMP+Location	DMP1008	105.100.10.8		100-4E		100	Not Beaty			P (004508, 100, 100, 100 1	
DUBI-Cockedit	DMP1005	A LOP ODE MARK		104-48-		100	Not Ready			MAC Address	
(24#+Cocates)	DMPSDOR	100.100.004		10/-46		No	And Bendly			Location ID	
DAT-Locatery	DMP1007	165,100.10.7		37.48		701	Seet Buildy				
DMF+Location	DMP1008	165.102.10.8		SV-46.		No	Fact Number			Deadent Crime El Ca.	
CAR+Location	DMF1009	100.120.313		39-44		70	Not Heavily		U.	Uncar Only include in the	
DMP-Location	DAPIET	100 100 100 101		SV-44		140	Not Heady		Ŀ	Control of the Date	
EMP-Location	DPREASON()	105.100.50.10		39.48		NE	Not Reply			Daulay files: monplat hits all fills?	
DRF+Location	DMPTOTY	165 100 10 11		51-45		No.	Not Hearty			Charles and the set	
EMP+Locatest	DMP1012	165,100.10.12		19748		flar	And Bendy			The ender 1971a	
DNP-Locater)	DMPIDIO	940.100.10.13		39-46		10	Not Beefy			Wet England (P) (mill (21 his)	
DMP-Location	DWP 1014	105.100.1014		59.44		141	Not Rearly				
DMP+Location	DAM1015	(65.110.10 is .		101-68		144	Not Rearly				

2. リストから特定のデバイスを選択し、[Edit] アイコンをクリックします。[Edit selection] ダイアロッグボックスが表示されます(図 23(46 ページ))。

図 23 特定の DMP のユニキャスト オプションの選択



- 3. デバイスの [Unicast Only] の [Yes] をオンにします。
- 4. 残りのフィールドに入力し、[Save] をクリックします。

状態遅延:推奨ソリューション

ユニキャストの状態変化メッセージを使用する DMP は、それらの状態変化を他の DMP(ユニキャストの状態変化 DMP を使用する DMP やマルチキャスト状態変化を使用する DMP)と同期しません。

考えられる回避策の 1 つは、システムがすべてのユニキャスト DMP と通信できるように、状態変化の実装を遅らせることです。

注:この手順は、ユニキャストの状態変化メッセージが原因で同期の問題が発生した場合の回避策としてのみ使用されます。 このような同期の問題が特に発生していない限り、状態の遅延を有効にしないでください。上記の注意事項を考慮してくだ さい。

デバイスの Cisco Vision Director でユニキャストレジストリを設定するには、次の手順を実行します。

- 1. [Configuration] > [System Configuration] > [Advanced Registry Settings] をクリックします(図 24(47 ページ))。
- 2. [Key] 列で [Add] をクリックします。[Create Configuration Setting] ダイアログボックスが表示されます。

図 24 レジストリの追加

cisc	Cisco Vision Dynamic Signage D	irector	# ° °	ш ы	¢ 4		Ail Venues
	System Configuration						
	Bu Dynamic Signage Director Settings (b) Goost DMP Settings (b)	+ - /	0			Value	
ę.	 Auto Registration Settings (3) 	snehost				10.194.171.47.8090	
	Be Management Dathboard (II) Be Notification Settings (1)	display Timeou	4			10	
	 Lögging level (7) 	overlayCount				1	
•0	B System Tasks (1) B Polp Export Settings (3)	startConcess startTote	on			1	
	Advanced Registry Settings	multiPhoneEn	asked			9	

3. [Name] フィールドに script.stateChange.nextStateDelay と入力します。

- 4. [Value] フィールドに n と入力します。ここで、n は状態変化を遅延させる秒数です。
- 5. [保存(Save)]をクリックします。

状態遅延に関する注意事項

- 状態遅延は、システム内のすべての DMP(ユニキャストを使用する DMP とマルチキャストの状態変化メッセージを使用 する DMP)に影響します。
- 状態遅延によってすべての状態変化がその時間に応じて遅れるため、状態が急に変化しにくくなります。
- 状態遅延は「ベストエフォート」です。ネットワークとシステムの条件によっては、上記で選択した値で状態変化メッセージの同期が実行される保証はありません。
- 状態変化が保留されている間は状態を変化させないでください。予期しない結果となる場合があります。

スクリプトごとのマルチキャスト設定のトラブルシューティング

このセクションでは、スクリプトごとのマルチキャスト最適化が有効になっている場合に生じる次の動作について、そのトラ ブルシューティングに関する情報を示します。

- スクリプトを開始または停止できない(47 ページ)
- DMP がリブートする(48 ページ)

スクリプトを開始または停止できない

マルチキャストのパケットが次の方法の一部またはすべてを使用して DMP に到達していることを確認します。

- Cisco Vision Director の TUI の [Troubleshooting] メニューから参照できる、制御ログの sv_msg_mcast_trace.log を調べます。
- Cisco Vision Director や DMP でパケット スニファ デバイスを使用します。
- マルチキャスト グループのサブスクリプションのデバッグを有効にして、Cisco Connected Venue スイッチのマルチ キャスト設定を調べます。

ヒント:特定の DMP がリッスンする必要のあるマルチキャストグループ/ポートを把握することが重要です。これは、次の URL に移動して dmpconfig デバッグ機能を使用することで検証できます。

http://svd-ip:8080/StadiumVision/dmpconfig/00000000000?ipaddr=x.x.x.x,

ここで、*x.x.x.x* は、デバッグ対象の DMP の IP アドレスです。XML の出力から、マルチキャスト IP アドレスと使用中のポートがわかります。

DMP がリプートする

スクリプトごとのマルチキャストを有効にしているときに、DMP がリブートする、または応答しなくなる場合、最も可能性が 高い原因は、一部のマルチキャスト ビデオ ポートがマルチキャストの制御に使用されるポートとオーバーラップしているこ とです。

この状態を診断する手順は次のとおりです。

- 1. 設定にあるすべてのマルチキャスト ポートを調べて、マルチキャスト グループ/ポートが重複していないか確かめます。
- 2. パケット スニファを使用し、DMP 経由ではなく別のボックスでポート範囲を経由して DMP のネットワーク トラフィッ クを調べます。

DMP でゾーンベース コンテンツ同期を行うためのマルチキャスト サポートの設定

ゾーンベース コンテンツ同期を使用すると、プレイリストの実行中に DMP がリブートした場合のビデオ ウォールのリカバ リ機能が強化されます。ゾーンベース ビデオ ウォール同期とは、ビデオ ウォールに参加している デバイスで使用できる代替 の同期形式です。この形式ではデバイス固有のメカニズムが使用されるため、一連のメディア プレーヤーはマルチキャスト を介して常にリーダー デバイスとコンテンツを同期できます。

ー般的なガイドラインとして、15 分を超えるビデオ コンテンツを再生する専用ビデオ ウォールには、ゾーンベース ビデオ ウォール同期を使用します。すべてのビデオ ウォールにこの同期形式を使用できますが、同期の利点がわかりやすいのは、よ り長いビデオ ウォール コンテンツを再生する場合です。

デフォルトのマルチキャスト アドレスとポートは、Cisco Vision Director ソフトウェアのインストール時に、DMP でゾーン ベース コンテンツ同期をサポートするように自動的に設定されます。ただし、この機能はデフォルトでは有効になっていま せん。

システム全体でマルチキャスト アドレッシングが必要であると判断し、必要に応じてデフォルトのマルチキャストの値を変 更する場合は、このタスクを実行します。

注:デフォルトでは、ゾーンベース コンテンツ同期は有効になっていません。詳細については、『Cisco Vision Dynamic Signage Director Operations Guide, Release 6.4』の「Working with Video Walls」の項を参照してください。

DMP でゾーンベース コンテンツ同期を行うためのマルチキャスト サポートを設定する手順は次のとおりです。

- 1. [Configuration] > [System Configuration] > [Global DMP Settings] > [Networking] をクリックします。
- 2. 次のプロパティについて、次のデフォルト値にネットワークとの互換性があることを確認し、必要に応じて変更します。
 - Content sync multicast address: 239.193.0.253
 - Content sync multicast port: 50001

3. 変更を保存します。

Cisco Vision Director で SNMP を有効にする方法

リリース 6.4 では、Cisco Vision Director が、ネットワーク管理サーバーから送信された Simple Network Management Protoco(SNMP) 情報要求に応答できるようにします。

Cisco Vision Director で SNMP を有効にするには、次の手順を実行します。

1. [詳細] > [SNMP] 設定をクリックします(図 25(49 ページ))。画面が更新され、設定とトラップのしきい値が表示されます。

図 25 ディレクタでの SNMP の有効化

Caco Vision Dynamic Signage D	ractor		5.0	al latenti -	
System Configuration	har frister				
 Mitestic Report Denter Service (II. Children Inner Container) 	0 R F			Manage Suffrager	
Channelin Deen	Defigration Property		Ven	and the local diversion of the local diversio	
Property international Programmers	1124-0.0040		***		
Contract Barrier Barrier	1127 Array Second		19.1	ARRAY CONTINUES.	
C contract contract and date	Rata KRIPUZ		Ameri		
C plant (male the	Train 1274		7.01		
· in the owners in	Andrea Starte				
	Ref DAR Agent Se	44	11		
Control - Andretheren Control Capition	Great Alle Automation	Address .	parter cani		
C December (Three produces	and 1	AUR		
	E . Bergrid MAN		Bud, grow,		
C Decomo Laterny 8	10000 (DE)				
C1 - Freeman Freedorg	and Associations				
C2 IIIine IIIeee	POINTE		100,000,000,000,000,000		
12 perceller test circue	their balance attingent		16 164 171 32 10 104 175 37		
C. Parallelle Barryania	Trans Int Juny		and the second s		
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	Name former an		00104105108		
+ Througeverd (tail front d)	The state of the state of the state				

 [slider] をクリックして SNMP を有効化します(図 26(49 ページ))。スクロールバーを使用して、すべてのトラップしき い値設定を表示します。

図 26 SNMP 設定情報の設定

these Cisco Vision Dynamic Signage Deector	A C D H M L O	Alexand P. S.A.
SPARP		
Web Confection		
manufacture of a distance of the		
Testitivities (14)	A (Course) Water Sector In	
second and	a process from the second	<u>.</u>
The large P - Inchestry an	A Partnership and	
Day-Hall 101	a through a	
The Reserve Configuration		
(Pc Terman, 1	* *(****)	
Parking Treater at	- 4(*******	
maines 1	4.902-000	
	Contraction Chart	
	And a state of the	

任意のフィールドにカーソルを合わせると、矢印が表示されます。必要に応じて変更を加えます。

3. [保存(Save)]をクリックします。

注:デフォルトでは、これは設定されていません。SNMPを有効にして設定を選択する必要があります。次に、トラップのしき い値を選択します。

DMP での SNMP の有効化

リリース 6.4 では、DMP での SNMP サポートが導入されています。サポートされている SNMP のバージョンは SNMP V2C です。

DMP で SNMP を有効にすると、メディアプレーヤーが外部ネットワーク管理サーバーからの SNMP 要求に応答できるよう になります。これにより、ネットワーク上のさまざまなデバイスが、異なるソフトウェアを実行しており、さまざまなハード ウェアデバイスを含んでいる場合でも、情報を共有できます。

DMP で SNMP サービスを開始するには、次の手順を実行します。

- 1. [Configuration] > [System Configuration] > [Global DMP Settings] > [Networking] をクリックします。
- 2. [Configuration Properties] パネルから [Start SNMP Agent Service](図 27(50 ページ))を選択します。

図 27 DMP での SNMP の有効化

riseb Cisco Vision Dynamic Signage	Director in C	0	4900 × ± 4
System Configuration			
Adapta Vene Tampada Adapta Vene Tampada	C E C Configuration Program 100° encoded 100° encoded 100° encoded 100° encoded 100° encoded 100° Encode 100° Enco	Vala end in file file file file file file file file	

- 3. [Edit] をクリックします。[Edit Configuration] ダイアログボックスが表示されます。
- 4. 値を「はい」に設定します。[保存(Save)]をクリックします。
- 図 28 SNMP エージェントサービスの開始の設定

Edit - Configuration Setting	ж
Name that 1980 April Second	
Vatue yes	*
Carcel Save	

このレジストリは、デバイスの SNMP ポートを開き、ログファイルを受信できるようにします。これで、DMP から SNMP サー ビス情報を受信できるようになりました。

ディレクターからの外部サーバーへの Syslog サポートの有効化

リリース 6.4 では、システムログファイルを Cisco Vision Director から syslog サーバーに送信できます。[System Configuration] インターフェイスで設定する新しい設定プロパティを追加しました。このプロパティのデフォルトは「false」です。Syslog ファイルを送信するように Director を設定した後、Cisco Vision Director からファイルを受信するように外部サーバーを設定します。

syslog プロパティを有効にするには、次の手順を実行します。

- 1. [Configuration] > [System Configuration] > [Dynamic Signage Director Settings] > [Syslog Configuration] をクリック します。
- 2. [Enable Syslog] 図 29(51 ページ))を選択します。
- 3. [Edit] をクリックします。[Edit Configuration Settings] ダイアログボックスが表示されます。
- 4. 下矢印から「true」を選択し、[Save](図 30(51 ページ))をクリックします。

図 29 Syslog プロパティの有効化

Cisco Vision Dynamic Signage Direct	or a c o a	u 1. 0	Aller in a state
System Configuration System Configuration System Configuration Substrate System Strengthere Configuration Strengthere Configuration Strengthere Substrate Strengthere Substrate Strengthere Substrates Strengthere Su	Configuration (Property Configuration (Property Descent (State of Description)) Descent (State of Description)	New Tree Strates for proc. New	

図 30 Syslog プロパティの有効化の設定



Cisco Vision Director は、次のシステムログファイルを NMS サーバーに転送します。

- RFC5424:RFC5424 で定義されている syslog メッセージの最新の形式
- RFC5426:ユーザー データグラム プロトコル(UDP)を介してログを転送します。
- サービスを有効にしたので、syslog ファイルの送信先を Director に指示します。

syslog IP およびポートアドレスを設定するには、次の手順を実行します。

- **1.** [Syslog Server IP & Port](図 31(52 ページ))をクリックします。
- 2. [Edit] をクリックします。[Edit Configuration] ダイアログボックス(図 32(52 ページ))が表示されます。

図 31 Syslog サーバー IP およびポートアドレスの設定

THE REPORT OF THE PARTY OF THE		<u>-</u>	
System Configuration			
• Sa Lipson Signal Sense Sense 19	0 1 2		
Interfer Server Composition	Endports Promy	C Materia	
C Aprendo Lado Liferad	A come facetory	lara-	
Control Welfamore Parameteria	Terring Service & Article 1		
Contract Names Strengt	International Contraction of Street, S	land.	
C None Constantion	A The second second second		
· Control Tens, Strender 141			
· · ·			
Classes 1 and			
C Second S Law			
a de la constante de la consta	1.		
A Manhatra Salara (S.			
· Property and 10			
a da haman han it			
· In Pole Date: Setting 19			
Chalanana Branda Jamman			
D international lines			

図 32 Syslog サーバー IP およびポートプロパティ

	Eak - Configuration Setting	
fame from boost	etter.	
Seller 10.108-102.23		_
Sales in the result		_

- 3. [Value] フィールドにアドレスを入力します。
- 4. [保存(Save)] をクリックします。

設定した IP アドレスは、syslog 情報を Cisco Vision Director からそのサーバーにルーティングします。

5. IP とポートのアドレスがフィールド(図 31(52 ページ))に表示されていることを確認します。

DMP システムログが Director にアクセスできるように設定するには、次の手順を実行します。

- 1. [Configuration] > [System Configuration] > [Dynamic Signage Director Settings] > [Syslog Configuration] をクリック します。
- 2. [Enable DMP Syslog through Director] プロパティ(図 33(53 ページ))を選択します。
- 3. [Edit] をクリックします。[Edit Configuration Settings] ダイアログボックスが表示されます。
- 4. 値を True に変更します。

Cisco Vision Directorサーバー システムの設定方法

Cloco Vision Dynamic Signage D	reichor		4 0mm + Ξ .
Pysem Conguration		Vita For C 1997 Nor Sector	111

DMP での Syslog サポート

[nable DMP Syslog] を true に設定すると、このコマンドにより、DWS ログを除くシステムログファイルが外部の Syslog サーバーに送信されるようになります。Cisco Vision Director の設定プロパティのデフォルトは false です。

DMP Syslog を有効化するには、次の手順を実行します。

- 1. [Configuration] > [System Configuration] > [Global DMP Settings] > [Networking] をクリックします。
- 2. [Enable DMP Syslog] を選択します。
- 3. [Edit] をクリックします(図 34(53 ページ)). [Edit Configuration Setting] ダイアログボックス(図 35(54 ページ))が 表示されます。

図 34 DMP Syslog サポートの有効化

ting Casco Vision Dynamic Signage Direct	(10F -	H 0 0 1	M N 0	41000 · · · · 2
System Configuration				
+ Martine Report Front Prints (1)	1 [×.		
· In the order to result to	Induction	mony	Table	
Character Australia Character	ide was to	and a second sec	195	
 Demonstration (Ania barry	2	- Salar	
Channels a secole d	Tanks 1004		10	
Conversion and and	(main 2445)			
42 Difference investories	The Det A	gent Salaria	7 pm	
The base	Const Apr.	south and independent	234.746.0.200	
Change and Laste	Context spec	Number of States	and a	
O Thereas arrange	daipers.4	la l	Seed, protect	
· · · ·	L manner			
A Distance of Castronee (1)	and Paperseries			
** a fair frankling in the format (1)	Previous		All company we share some dit	
A B Langer work (7)	Thinks Reality	and the second s	HE RECTIFIED IN PROTOTION	
a da Tantario Tanta (1)	(Come) dog - 1	and a	1000	
I have been to true (1)	Apress Service	P	10.104 110.104	
C Adversal Registry Soliton	Anna Steen	Ph		

図 35 DMP Syslog プロパティの有効化の設定

FI	R + Cooligunition Setting	
ine me		*

4. 値を true に設定します。[保存(Save)] をクリックします。

注:このプロパティを有効にしたら、DMP を再起動します。

Syslog のサービスを開始または停止すると、ログファイルが最初から開始され、履歴が失われます。古いログファイルの消去 および廃棄機能は同じままです。

システムログファイルをリモートサーバーに送信するには、Director UI で Syslog サーバー IP 設定を設定します。

Syslog サーバーの IP アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

- 5. [Configuration] > [System Configuration] > [Global DMP Settings] > [Networking] をクリックします。
- 6. [Syslog Server IP] を選択します。
- 7. [Edit] をクリックします(図 36(54 ページ)), [Edit Configuration Setting] ダイアログボックスが表示されます(図 37 (54 ページ)),

図 36 DMP からの Syslog サーバー IP

theat Cisco Vision Dynamic Signage I	Vector 🗰 🖂 🕯	a a la D	10 mini + 12 A
System Configuration			
	C Configuration Property LLM results LLM results LLM results LLM results LLM results LLM results LLM results State	MAX Bas Bas Bas Bas Bas Bas Bas Bas Bas Bas	

図 37 DMP からの Syslog サーバーの IP アドレスの設定

Ealt - Configuration Setting	
Name: Social Renal (F. L. Con-	
Some on other and	- 0
Caver Law	

- 8. [Value] フィールドにアドレスを入力します。
- 9. [保存(Save)]をクリックします。

設定した IP アドレスは、syslog 情報を DMP からその外部サーバーにルーティングします。

IP アドレスがフィールドに表示されていることを確認します。

注:診断 Web サーバーログを DMP に送信するには、[Enable DWS] プロパティを [yes] に設定する必要があります(図 38 (55 ページ))。

図 38 DMP の DWS の有効化

Cloco Vision Dynamic Signage	Director au 1		10 Marter 1 2 1
System Configuration			
	o a 🔽		
Contra terra condition	Configuration Programy	Value	
To agreeme used of black	1119	0.0	
C Donald Statutes Parameters	1110 proprietation		
C Connect James James Print	Hara dating	Take .	
C. Symmy () (1998 provider	from the	100	
• in 1984 (Art Service (B	Supervised.	(m)	
C failed and	Their Made Agent Spinsor	144	
Contradi - August Vacational Capital	Control type routional address	218 102 0 262	
C Decom Laterty 1	Contract and multiple and	August .	
C Decost Lances F	T magnericken	Doct, prior	
C Owner President	Vieweg Title		
C. Carranna american	And Presidents		
C Tory States	Prop CPL	mission on the config	
C through and Castra	Pring Department and Personnel	THE THE DIT 12, TO THE TITS OF	
C Rulling Rulling	Trans 184 System	1448	
 A Mathematica Strategy, 12 	Restance and the	The same birds there	

注:DMP を再起動して有効にします。

ディレクターの管理情報ベース(MIB) 変数

Cisco MIB データを取得するには、次の手順を実行します。

1. FTP クライアントプログラムを使用して、ftp.cisco.com にアクセスします。

2. ログインして、anonymous をユーザー名として使用し、メールアドレスをパスワードとして使用します。

3. cd/pub/mibs コマンドを発行して、ディレクトリを /pub/mibs/v2 に変更します。

注:問題が発生した場合は、パスワードの最初の文字としてマイナス記号(-)を使用してログインしてみてください。これにより、FTP クライアントプログラムを混乱させる可能性のある機能が無効になります。Cisco.com からファイルをダウンロード するには、パッシブモード対応の FTP クライアントを使用する必要があります。次のを取得するには、システム管理者に連絡 します。

FTP 関連の問題に関する質問、意見、または問題レポートを Cisco.com フィードバックに送信します。

次の表に、Cisco Vision Director で現在サポートされている MIB を示します。

送信元	· 值
CPU	ユーザー CPU 時間の割合:.1.3.6.1.4.1.2021.11.9.0
	未処理のユーザー CPU 時間:.1.3.6.1.4.1.2021.11.50.0
	システム CPU 時間の割合:.1.3.6.1.4.1.2021.11.10.0
	未処理のシステム CPU 時間:.1.3.6.1.4.1.2021.11.52.0
	CPU アイドル時間の割合:.1.3.6.1.4.1.2021.11.11.0
	未処理の CPU アイドル時間:.1.3.6.1.4.1.2021.11.53.0
	未処理の CPU 最適時間:.1.3.6.1.4.1.2021.11.51.0

表 6 Cisco Vision Director の MIB

次の作業

表 6 Cisco Vision Director の MIB(続き)

送信元	値
メモリ	合計スワップサイズ:.1.3.6.1.4.1.2021.4.3.0
	利用可能なスワップ領域:.1.3.6.1.4.1.2021.4.4.0
	マシンの合計 RAM: .1.3.6.1.4.1.2021.4.5.0
	RAM 合計使用済み容量:.1.3.6.1.4.1.2021.4.6.0
	RAM 合計空き容量:.1.3.6.1.4.1.2021.4.11.0
	RAM 合計共有済み容量:.1.3.6.1.4.1.2021.4.13.0
	RAM 合計バッファリング済み容量:.1.3.6.1.4.1.2021.4.14.0
	キャッシュされたメモリの合計:.1.3.6.1.4.1.2021.4.15.0
ディスク	ディスクがマウントされている場所のパス:.1.3.6.1.4.1.2021.9.1.2
	パーティションのデバイスのパス:.1.3.6.1.4.1.2021.9.1.3
	ディスク/パーティションの合計サイズ(キロバイト): .1.3.6.1.4.1.2021.9.1.6
	ディスクの空き容量:.1.3.6.1.4.1.2021.9.1.7
	ディスクの使用済みスペース:.1.3.6.1.4.1.2021.9.1.8
	使用されているディスク容量の割合:.1.3.6.1.4.1.2021.9.1.9
Network	NIC 名のリスト:.1.3.6.1.2.1.2.2.1.2
	データの受信:.1.3.6.1.2.1.2.2.1.10
	NIC 4 のデータの受信:.1.3.6.1.2.1.2.2.1.10
	データの送信:.1.3.6.1.2.1.2.2.1.16
	NIC 4 のデータの送信:.1.3.6.1.2.1.2.2.1.16
NTP 同期ステータス	.1.3.6.1.4.1.9.9.1051.2.3
TV HDMI オン/オフ	.1.3.6.1.4.1.9.9.1051.2.2.1
ディレクタサービス	.1.3.6.1.4.1.9.9.1051.2.2

次の作業

Cisco Vision Director サーバーのシステムの設定が完了したら、次の作業を実行します。

- プライマリサーバとセカンダリサーバ間でバックアップ環境を設定します。詳細については、Cisco Vision Director サーバーのバックアップと復元(87ページ)を参照してください。
- 複数施設をサポートするための Cisco Vision Director の設定については、複数施設サポートのための Cisco Vision Dynamic Signage Director の設定(57 ページ)を参照してください。